

# 医学系研究に関する情報公開および研究協力のお願

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	第五中足骨近位部疲労骨折に関する後向き研究
研究責任者	聖隷浜松病院 整形外科 前田 裕大
研究実施体制	【研究責任者】 聖隷浜松病院 整形外科 前田 裕大 【研究分担者】 聖隷浜松病院 整形外科 佐々木 寛二 同 スポーツ整形外科 船越 雄誠、中村 勇人、浮田 大貴 同 足の外科 滝 正徳、大嶋 教勢
研究期間	臨床研究審査委員会承認日 ~ 2030年12月31日
対象者	2013年04月01日から2030年12月31日までの間に聖隷浜松病院足の外科・整形外科・スポーツ整形外科に第五中足骨疲労骨折で通院または入院した患者さんです。
研究の意義・目的	第五中足骨近位部の疲労骨折は若年アスリートに好発し、難治性骨折の一つとして知られています。競技復帰までに長期間の離脱を要するうえに偽関節や遅延癒合のリスクも高いため、予防および治療方法の決定には注意を要します。 従来、近位骨幹部に発生する関節外骨折が疲労骨折として分類されてきましたが、骨折線が第四・第五中足骨間関節に及ぶ関節内骨折も一定数存在していることが推察されます。我が国においては、これら関節内骨折も含めて疲労骨折として取り扱われることが多いものの、その疫学的特徴については十分に検討されていません。 第五中足骨近位部疲労骨折において関節内骨折の疫学や形態学的特徴を明らかにするとともに、関節外骨折と治療成績を比較することで、それぞれの最適な治療法および予防法を検討することを目的としています。
研究の方法	対象患者さんの年齢や性別、受傷機転、手術記録、画像検査等の診療録を調査します。
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 整形外科 (氏名)前田 裕大・浮田 大貴 TEL:053-474-2222(代表) 整形外科外来 9:00~17:00 平日